

その瞳は
一体なんだったのか



みどりのくま

目次

君のその瞳は一体なんだったのか。

僕はその瞳の力が、すべての混沌を打ち破り、来るべき社会へと連れていってくれるものだど期待したのだ。

しかし、君はいなくなってしまった。

僕たちを置き去りにして。

君は一体どういうつもりなのだ。

わたしの瞳が、なんですって。

言ってることがわからない。

あなたが勝手に期待して、勝手に失望しているだけじゃないの。

一体わたしにどうしろと言うの。

僕たちは君のその瞳の持つ力を信じたのだ。

その力を信じて、今度こそはユートピアへ行けると信じたのだ。

君は僕たちを裏切ったのだ。

あなたは何を勝手なことばかり言っているの。

瞳の力を信じたですって。

あなたに一体何がわかると言うの。

あのときわたしが一体何と戦っていたのか、あなたは知っているとも言うの。

僕たちは君の、その瞳にこめられた怒りを本物だと思ったんだ。

怒りが、僕たちを窒息させる壁を打ち抜いてくれる、そう信じるに足る力を君のその瞳に見たのだ。

あなたは何もわかっていない。

わたしの怒りとは、あなたの言う抽象的な小児病的なものとは違う。

男であるあなたに、女であるわたしの苦しみなどわかるものではない。

何だって。

男とか女とか。

関係ないでしょ。

人間として、この抑圧をはねのけて、本来の姿を取り戻すということだよ。

人間のたどりつくべき場所へ行くことだよ。

僕たちは実現できると思ったのだ。

だから、今はただ残念でならない。

僕たちは君がその瞳の力を生かすことなく君の責任を果たすことなく去ったことが残念でならない。

あともう少しのところだったのに。

すべてを台無しにした君のことが残念でならない。

勝手なことばかり。

あなたの言う理想のためにすべての責任を背負って火に焼かれろと言うの。

まっぴらごめんだわ。

そうやってあなたたちはあなたたちの都合のいいアイコンにすべてを託して、安全地帯から勝手な期待をしているだけ。

そんな身勝手な連中の犠牲になるなんて馬鹿げたことだわ。

じょうだんじゃない。

それにね、あいもかわらず空想的なひとつのことにいつまでもしがみついている男たちとちがって、女には時間が無いのよ。

あなたたちの想像もつかない苦しみに耐えて、それでも次々と襲いかかるものどもと戦い続け生き続け、限られた時間に追われるように生きざるをえない女の人生を全うするための怒りのエネルギーを、男どものくだらぬお遊びに使うわけないだろ。

まあいい。

君は、もういい。

代わりを見つけるだけのことだ。

君は何もわかってない。

君には本当に失望した。

でも、もういいよ。

はい。ごくろうさま。

もしもし。わたしの話が聞こえていますか。

あ～あ、行っちゃったよ。

まったく。話にならないな。

まあいいや。

わたしはあのころのわたしじゃなくて、いまのわたしを生きているのだから。

もうあんな瞳を、わかりやすく敵意をむきだしにした瞳を、わたしはしていないのだからな。
でもね。

怒りを忘れたわけではないのだよ。

戦うことをあきらめたわけではないのだよ。

ただね。

壁は途方もなく分厚いのだよ。

一朝一夕に結果がでるものではないのだよ。

怒りを心に秘めて、戦い続けるしかないのだよ。

その瞳は一体なんだったのか

著 みどりのくま

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
